

令和 8 年度整備  
水槽付消防ポンプ自動車（西武分署）仕様書

## 第 1 総則

### 1 目的

この仕様書は、埼玉西部消防局（以下「当局」という。）車両整備計画に基づき購入する水槽付消防ポンプ自動車（以下「車両」という。）の製作にあたり、必要な事項を定めることを目的とする。

### 2 摘要

- (1) 車両は、火災・各種災害及びこれらの災害における緊急出場に対処できるよう製作するもので、ポンプ・各構造・装置は堅牢で耐久性及び耐食性に優れたものでなければならない。
- (2) 本仕様書について疑義が生じた場合又は変更の必要を認めたときは、受注者は直ちに当局に連絡し、その指示を受け誤りのないようにすること。  
なお、不明な点は当局へ確認し十分熟知のうえ契約するものとし、契約後に生じた疑義は、全て当局の解釈に従うものとする。

### 3 規格

- (1) 車両は、この仕様書に定めるもののほか、緊急消防援助隊施設整備費補助金交付要綱（平成 18 年 4 月 1 日消防消第 49 号）及びその他関係ある法令・通達に適合するものであること。
- (2) 道路運送車両法（昭和 26 年法律第 185 号）、道路運送車両の保安基準（昭和 26 年運輸省令第 67 号）に適合し、緊急自動車として承認が得られるものであること。
- (3) 日本消防検定協会策定の「消防用車両の安全基準について」の項目を満足し、国際標準化機構策定の「ISO 9001」及び「ISO 14001」の認証工場で製造が行われていること。
- (4) 車体は、常時登録された車両総重量の状態において、十分耐え得るものであること。  
また、車体の艤装材料は、JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）又はこれと同等以上の強度及び耐久性を有するものを使用してあること。
- (5) ポンプの艤装材料は、動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令（昭和 61 年自治省令第 24 号）の規定に適合するものであること。
- (6) ホースの結合用ネジ部の艤装材料は、消防用ホースに使用する差込式又はねじ式の結合金具及び消防用吸管に使用するねじ式の結合金具の技術上の規格を定める省令（平成 25 年総務省令第 23 号）の規定に適合するものであること。
- (7) 艤装材料の厚さは次によるものとし、フロアステップ、バンパー上部、リヤフェンダー上部及びその他必要とする部分はしま鋼板であること。

ア 側板 I 型 1. 6 mm 以上 II 型 2. 0 mm 以上

イ サイドエプロン 1. 2mm以上

ウ フェンダー 1. 0mm以上

エ ホース延長用資機材昇降レール 4. 5mm以上

#### 4 検査

- (1) 検査は、中間検査、完成検査、その他当局が必要と認める検査とする。
- (2) 検査を受けようとするときは、事前に検査日時、場所及び要領を記載した検査願書を提出し、当局の承認を受けること。
- (3) 検査にあたっては、営業担当者等が立ち会うこと。
- (4) 指示事項及び確認事項は立会人が記録し、受注者と当局が確認のうえ指示書を取り交わすこと。

##### (5) 中間検査

完全塗装前に、仕様書及び承認図に基づき、次の事項について実施する。

ア 取付け品及びシャシ付属機器の取付け状況の適否

イ キャブ改造工事、艤装状況の適否

ウ 艤装の形状、構造、寸法等

エ 取付け品の位置及び付属品の収納等の状況

##### (6) 完成検査

次の事項について実施する。

ア 中間検査結果における指示事項の確認

イ 本仕様書、承認図等に基づく車両、艤装関係検査

ウ 付属品の確認

#### 5 納入

- (1) 納入場所 埼玉西部消防局（配置先：入間消防署西武分署）
- (2) 納入期限 令和9年3月12日
- (3) 納入に際しては、事前に車両各部の点検整備を施し、燃料満タンで納入すること。

#### 6 保証

保証期間は、車両メーカー保証期間に準ずることとする。

ただし、保証期間終了後においても材料の不良、設計、製作、組立の不適により故障及び破損等の欠陥を認めたときは、すべて受注者が無償で修理、交換するものとする。

#### 7 技術指導

受注者は、納入後において、技術指導のための指導員を派遣し、車両の取扱操作に係る技術指導をすること。

なお、技術指導に係る費用は受注者の負担とし、日程については当局と調整を図ること。

#### 8 製作中の問題処理

車両の製作にあたり生じた問題事項は、受注者が責任を持って解決すること。

#### 9 付属品

付属品は、通常シャシ及び艤装のため必要な附属品のほか、別表によるものとする。

## 10 その他

(1) 自動車登録番号は、当局が指定する番号とする。

(2) 納入までの経費については、すべて受注者が負担するものとする。

ただし、自動車重量税、自動車損害賠償責任保険及びリサイクル手数料金については受注者がこれを立替払いし、発注者が納車後に支払うものとする。

(3) 車両の更新に際し、廃車又は一時登録抹消及び変更登録する車両は、それに係る手続きについて受注者に委任し、手続きについて処分経過及び収支報告を行うとともに、これに係る領収書又は見積書を添付すること。

なお、廃車又は一時登録抹消及び変更登録する車両に係る手続きについての経費は受注者が負担するものとし、契約金額に変更が生じる場合は別途協議すること。

(4) 本仕様書に定めるもののほか、視認性及び安全性を高めるための措置をとること。詳細は当局担当者と別途協議すること。

## 第2 提出書類

### 1 製作承認

製作に先立ち、本仕様書に基づく次の書類を各3部提出し、当局の承認を得ること。車両の艤装等の製作は、当局の承認後に開始すること。

(1) 製作工程表

(2) 諸元明細表

(3) 各種計算書

ア 車両艤装5面図

イ ポンプ搭載図

ウ 動力伝達装置関係図

エ 電気配線図

オ 諸元明細表（取付品及び付属品・メーカー名一覧表）

カ 各計算書（艤装重量・車両重量・加重分布計算書・最大傾斜角度計算書）

キ ボックス関係図

ク その他、当局が指示するもの

### 2 工程表

契約後、工程に変更が生じる場合、当局に工程表を再提出すること。

### 3 着手届

製作開始に先立ち、着手届を提出すること。

### 4 完成図書等

車両完成時に、次の書類を2部提出すること。

(1) 車両取扱説明書

- (2) ポンプ取扱説明書
- (3) 消防ポンプの試験成績書
- (4) エンジン・シャシのパーツリスト（１部）
- (5) 車両等艤装概要説明書（１部）
- (6) 自動車車検証の写し
- (7) 各計算書（艤装重量・車両重量・加重分布計算書・最大安定傾斜角度計算書）完成車重量実測測定検査成績表、完成車転覆角度検査成績表
- (8) 完成車構造図
- (9) 自主表示の写し
- (10) 製造工程写真（シャシ、組立中、塗装後、艤装後）  
試験工程写真（転覆角度試験、重量実測試験、放水試験）
- (11) 無線局免許状（１部）
- (12) 無線局指定事項及び変更許可通知書（１部）
- (13) その他、当局が指示するもの

### 第３ シャシ

#### １ 使用シャシ

シャシは、国産自動車メーカー製消防専用シャシとし、次の要件を満たすものであること。

- (1) 車両完成寸法
 

ア 全長	7, 100 mm以下
イ 全幅	2, 500 mm以下
ウ 全高	3, 200 mm以下
エ ホイルベース	3, 500 mm以上
- (2) オートマチックトランスミッション
- (3) ディーゼルエンジン74kw（100ps）以上で最新の排出ガス規制を充たしていること。
- (4) 二輪駆動方式
- (5) 乗車定員は6名とし、安全に乗降できる座席を設けてあること。

#### ２ 標準取付け品

本仕様書において指定したもの以外の装備品は、消防専用シャシとしてメーカーが公表した標準取付け品を装備していること。

#### ３ 標準装備品

シャシの標準装備品は別表に定めるほか、次のとおりとする。

- (1) ステアリングはパワーステアリング装置付きとする。
- (2) ブレーキはABS装置付きとする。
- (3) 全席パワーウインド付きとする。
- (4) 運転席はエアバッグ付きとする。

- (5) タイヤはオールシーズンタイヤ・スペアタイヤ付き（スチールホイールキャップ付き）とする。
- (6) 各ドアは電磁ロック（キーレスエントリー付き）とする。
- (7) ルームミラー型バックアイモニターを備えるものとする。
- (8) ドライブレコーダーを備えるものとする。
- (9) AM・FMラジオ及びデジタル時計付きとする。
- (10) エアコンディショナー付きとする。
- (11) ヘッドランプはLED式ヘッドランプとする。
- (12) 音声警報器は、方向指示器又はバックギヤと連動させ、アラームの切り替えは元切り替え式とする。
- (13) 助手席側はパワーミラーとする。
- (14) 運転席及び助手席はサンバイザー付きとする。
- (15) キャブ内天井は無線アンテナ等の結線部を点検できる構造とする。
- (16) ジャッキ等規定工具一式を備えるものとする。
- (17) 当車両に装備する照明設備はLED（規定及び指定以外）とする。
- (18) バッテリー（12V—100AH又は24V—100AH及びオルターネーターは、電装品及び照明等の使用時に耐えられる容量であるものとする。
- (19) その他車両運行基準に規定するものを装備する。

## 第4 消防ポンプ

### 1 ポンプ装置

#### (1) ポンプ

ポンプ型式	一段ボリュート式水ポンプ、高圧二段バランスタービンポンプ、三段タービンポンプのいずれかとする。
ポンプ性能	A—2級以上
	送水圧力 0.85MPa において放水量 2,000L/min 以上
	送水圧力（高圧） 1.40MPa において放水量 1,400L/min 以上

- (2) ポンプは、シャシ・エンジンのPTO（パワーテイクオフ）により駆動され、PTOの操作は運転席に設けられたスイッチ又はレバーにより行うものとする。このPTOは、シフトがPレンジでサイドブレーキ作動時のみ作動するものとする。
- (3) ポンプグランドパッキン部は、メンテナンス性を考慮してメカニカルシール構造及び無給油式グランドパッキン構造とすること。

#### 2 真空ポンプ

真空ポンプは、ピストンを左右に動かし吸排気バルブにより空気を排出するピストン式真空ポンプ又はその駆動を電磁クラッチ等介して行う偏心ロータリー式とし、注油装置を必要

としない完全オイルレス構造とすること。

なお、非常用の別系統スイッチを車両の左右に備えるものとする。

真空性能：吸管外端閉塞にて30秒以内に大気圧の84%以上とする。

### 3 安全機能装置付ポンプ操作装置

ポンプ操作装置は操作員が容易かつ安全にポンプ操作が行えるよう、次の機能を有するものとする。

- (1) 圧力計・連成計（リタード式）は電子式（透過光照明灯・ゲージ部作動確認ランプ付）又は同等品とし、振動等でも針振れがない構造とすること。
- (2) ポンプスロットルは電子式スロットル又は同等品とし、スロットルの作動状態については左右ポンプ操作装置の中央に設けた多目的表示液晶ディスプレイに表示するもの又は同等品とすること。
- (3) 多目的表示ディスプレイは次の3種類以上が表示できるものとし、これに対応できない場合は、別表示とすることができるが、操作員が容易に操作できる配置とすること。

取扱表示	機器取扱・点検整備・故障対策等の文書表示
モニタ表示	1 冷却水及び真空ポンプ作動タイムに対する警告表示 2 各ボールコックの開閉状況 3 揚水、放水の状況表示・ポンプ圧力計・ポンプ連成計・流量計（左右に各1）・積算流量計・ポンプ回転計
流水表示	1 各ボールコックの開閉状況 2 ポンプの運転状況及び放水時における水の流れる状況を表示

- (4) ディスプレイ内の各表示切換は手袋等をした状態でも確実に作動できるように押しボタン式により行えるもの又は同等品以上とすること。  
また、ディスプレイの大きさは、隊員の視認性を考慮し7インチ以上とすること。
- (5) 非常時における真空ポンプ及びスロットル操作はボディー左右に設けられた別回路の手動操作装置にて行えるものとする。
- (6) ポンプ操作装置には隊員の安全を確保するため、スロットル固定機能を設け、不用意にスロットルに触れてもエンジン回転の上昇を防ぐようスロットル固定機能を設けること。  
ただし、固定した場合でも安全方向（スロットルダウン）には操作できるものとする。
- (7) 長時間に渡る活動時において、機関員がキャビンに乗り込むことなくシャシ燃料、エンジン水温度計、DPR 情報を確認及び警告に気付けるようディスプレイ内にインジケータにて表示すること。
- (8) Iot 端末を搭載し、遠隔地においても放水量及びポンプ回転など各センサーの数値を確認できるようにすること。

#### 4 吸水口

- (1) 吸水口は、呼称75mmとし車両左右ポンプ操作室に吸水口を設け、吸管は75mm又は90mmのスイベルエルボにて取付けること。

なお、ポンプ操作盤付近両側に確認装置付きエゼクター装置を設けること。

- (2) 吸水口のボールコック操作は、開閉操作状態が明確になるようにすること。

#### 5 中継口

中継口は、呼称65mmボールコックとしボディー左右に各1個設けること。

#### 6 放水口

放水口は、呼称65mmボールコックとし第1・第2放口をスイベル付きマルチコネクターとし、第3・第4放水口にはマルチコネクターを取付けること。

#### 7 ドレン

主ポンプドレンはPTOに連動させ、吸水コック及び中継コック等のドレンは可能な限り配管を集中させドレンコック数を少なくすること。

### 第5 水槽

#### 1 水槽の構造等

- (1) 容量は、1.5m<sup>3</sup>以上とすること。
- (2) 材質は、次の厚さの鋼材（日本産業規格G3101）又はこれと同等以上の強度を有するものとし、水槽は全体のバランスを考慮した位置に取付けること。（側板4mm以上、底部6mm以上、上部4.5mm以上。ただし上部を通路とするものにあってはしま鋼板であること。）
- (3) 水槽は、振動、衝撃等により損傷、緩みのない構造とし、水槽内面は適当と認められる防食加工を施し、水槽内部には有効な防波板を設けること。  
また、走行中における振動及び水圧に対して変形かつ水漏れ等が生じない強固な構造とし、水槽の側面等には結露及び凍結に対して有効な断熱対策を行うこと。
- (4) 水槽内部は、清掃、塗替等に便利な構造であること。
- (5) 水槽には、オーバーフローパイプ、補給口及び水量計を設けること。  
また、オーバーフローパイプは、走行時に漏水が最小の構造とすること。
- (6) 水槽は、ポンプによる自己補給が可能であり、ポンプへの補給口及び排水口が設けられ、配管には緩衝装置を施していること。
- (7) 水槽には、マンホールを開閉することなく、水道水を水道ホースにて補給できるコックを適切な箇所に設けること。
- (8) 水槽には、安全に内部へ進入できる点検口を設けるとともに、雨水等が混入しない構造とすること。

点検口（マンホール）はボディー上部に設け、点検口が突出することなく、できる限り

フラットとなる構造とすること。

- (9) 水槽下部には、内部の水を排出できるタンクドレンバルブを設けること。
- (10) 水槽の水量が常時確認できるよう、車体両側に詳細に表示する水量計を設けること。
- (11) 補給口は、水槽に直接補水できる構造で呼称65mmの配管とし、呼称65mm差込メスの媒介金具（ストレーナー付き）を車体左右側面に設置すること。（逆流防止弁付き）  
なお、当該媒介金具が車体の外観となる場合には防塵キャップ（脱落防止チェーン付き）を取付けること。

## 第6 キャブ

### 1 キャブの構造

- (1) キャブは、鋼板製で十分な強度を有し、キャブオーバーダブルキャブ型で電動油圧式チルトアップ装置付きとすること。
- (2) キャブ天井部は、堅牢、かつ居住性に優れた構造とし、屋根は隊員が装備を付けたうえで長距離の走行でも快適に乗車できる高さを確保すること。  
また、車室は堅ろうな天蓋及びドアを有すること。
- (3) キャブ上部の赤色警光灯の中央部に、スピーカー及び電子サイレンを内蔵すること。
- (4) 全座席の窓ガラス上部にサイドバイザー（樹脂製）を取付けること。
- (5) 標識灯は、白色の標識灯カバーに当局指定の所属名を丸ゴシック体の黒文字で表示すること。
- (6) キャブ前面中央に消防章を取付けること。
- (7) キャブ左右センターピラーに乗降用の手摺を取付けること。
- (8) アルミ縞板張り後部座席乗降用ステップを設け、滑り防止処理を施すこと。
- (9) バッテリーの取出しは、点検、交換等が容易にできるスライド式とすること。
- (10) キャブ張出部左右に無線受話器（AVMスイッチ含む）及び無線スピーカーの収納ボックスをキャブ一体型にして備えること。  
なお、キャブスペースに取付け困難な場合は、後部シャッター内、無線操作部付近とすること。
- (11) キャブ底部又はキャブ上部にモーターサイレンを取付けること。（詳細については別途担当者と協議すること。）
- (12) フロントバンパー上部全面に足掛け保護用のアルミ縞板を備えること。  
また、フロントパネル部に赤色点滅灯を取付けること。

### 2 キャブ内部の構造

- (1) 前座席上部又はダッシュボード内に電子サイレンアンプ、集中制御ボックス（10連式）、無線機、無線受話器、スイッチ類等を体裁よく取付けること。
- (2) 天井はアンテナ等の結線部を点検できる構造とし、後部座席前後ルーフ付近に室内灯（LED型）各1個を適切な個所に取付けること。



なお、室内灯スイッチは、個別に入・切できるものとする。

- (3) 天井空スペース（運転席・助手席上部及び後部座席上部）に、小物等の収納を備えること。
- (4) 後部座席には、空気呼吸器取付け装置４基と背当シートを備え、空気呼吸器を取付けた状態で室内スペースを十分確保できる構造とすること。
- (5) 後部座席前方に手摺を設け、大型Ｓ字フック（８個）を取付けること。
- (6) 後部座席前方手摺部へ、携帯無線機及び書類等の収納ボックスを取付けること。  
また、前席中央の助手席を取外し、収納ボックスの前面（運転席と助手席の間）に空気呼吸器取付け装置を体裁よく取付けること。（詳細については別途担当者と協議すること。）
- (7) 後部座席シート下部は物入れボックスとして使用できるものとする。また、座面はダンパー式とすること。
- (8) 各座席の乗降部は、乗降用の握り棒を取付けること。
- (9) 助手席及び後部座席左右に各席で点灯及び消灯ができ、照明位置が調整可能なキャッチホルダー付マップランプ（ＬＥＤ型）を取付けること。

## 第７ 車体艤装

### １ 車体全体の構造

- (1) 形状については、オールボックス型（ポンプ室を除く）とする。
- (2) 艤装は総合的な重量軽減を図り、車両重量バランスを考慮して製作すること。
- (3) 車両の重要な点検箇所及び主要部分の点検整備に関して、工具類を使用する為のスペースを確保するとともに、必要箇所には点検口または点検扉を設けること。
- (4) ボックスの構成については、車両両側前方下部ボックス、車両両側中央ボックス、車両両側後方ボックス、車両後面ボックスから構成される構造とすること。
- (5) 各ボックス扉は、堅牢で気密性に優れた構造とし、合わせ目にゴム製パッキン等を使用し水密を保つこと。
- (6) 各ボックスには水抜き用の穴を２箇所以上設け、車体下方まで延長するパイプを接続すること。
- (7) 車体高さは、キャブの高さと水平に近い高さとするとともに、さらに、両側面上部は、車体一体型のあおりを設けること。

なお、形状は、別途協議し指示する。

- (8) 全てのボックス内（分割されている場合は各段）、ポンプ室内に庫内灯を取付け、ディーマススイッチのスモール及びライトＯＮかつ、扉等の開閉と連動して入・切できる庫内灯を庫内が鮮明に確認できる必要個数を適切に取付けること。

なお、資機材等を取出し時等に引っ掛りが生じぬように埋め込み取付けをする等、適切な取付けをすること。

- (9) 車体側面前部（キャブとの間部分）左右に、車体上部への昇降用として固定式梯子（ス

ステンレス製）又は足掛け（アルミ製折りたたみ式）を取付けること。

なお、車体上部に昇降する際に手摺りが必要と思われる箇所には、十分な補強を実施した上で最適な形状のものを取付けること。

(10) 全てのステップには、滑り止め処理を施すこと。

(11) 原則として全てのボックス各段の床面に、適正な形状のすのこ又は樹脂製のマット等を敷くこと。

(12) 車体左右の適正な位置に、路肩灯及び車幅灯を取付けること。

なお、各操作スイッチはキャブ内の集中制御ボックス内に設けること。

## 2 車両側面の構造

(1) 両側前方中央にポンプ操作装置及び各計器類を取付け、その周囲に吸管を備えるものとする。

また、その下部にボックスを設けて扉（フランス落し付き）はチェーンレスの展開式ステップとしても使用できる構造とすること。

(2) 中央ボックスは、扉をシャッター式とし、内部は各資機材が積載できるように高さ調整を可能とする仕切り板2枚を設け、各資機材が落下及び移動しない措置を講じること。

また、その下部の後輪タイヤフェンダー部分は、チェーンレスの展開式ステップとしても使用できる扉（フランス落し及びダンパー付き）とすること。

(3) 後方ボックスは、上下二分割構造とし、扉は上部がシャッター式、下部がチェーンレスの展開式ステップとしても使用できる扉（フランス落し付き）とする。

上部ボックスについては、各資機材が積載できるように高さ調整を可能とする仕切り板2枚を設け、各資機材が落下及び移動しない措置を講じること。

また、その下部については、積載物を容易に取出せるロック機能付スライド式（奥壁一体型）とし、積載物を容易に固定及び固定解除ができる構造とすること。

(4) 車両側面上部に赤色点滅灯及び作業灯を左右各2個設けること。取付けは、出来る限り吐出させないように（埋没式等）するとともに、作業灯については各操作の照度が十分保てる角度にすること。

赤色点滅灯は赤色警光灯及びサイレン連動とし、作業灯については、車両側面又は後部のスイッチにより入・切できるものとする。

## 3 車両後面の構造

(1) ボディー後面はアルミ式オールシャッターとすること。

(2) シャッター内にホースカー1台を格納し、積載するものを備えること。

(3) ホースカーの車体への固定は、電動油圧式昇降装置により行い警報装置を備え安全確実に、かつ迅速に着脱できるものであり、操作が簡単であること。

(4) ホースカーの格納した奥には棚（2～3段）を設けること。

(5) シャッター右側に、車両上部の昇降用としてステンレス製もしくはアルミ製の梯子を設けること。なお、構造については次のとおりとする。

ア 車両走行中は格納することが可能な構造でロック機能を有していること。

イ 車両上部に安全に昇降できるように手摺りの長さに余裕を取ること。

ウ 梯子の横桟には、滑り止め措置を講ずること。

- (6) シャッター左右には、赤色点滅灯及び作業灯を各 1 個設けること。赤色点滅灯については、赤色散光灯及びサイレン連動とし別途キャビン内で入・切できるスイッチを設け、作業灯については、車両後部のスイッチにより入・切できるものとする。

#### 4 車両上部の構造

- (1) 車両上部は、全面アルミ縞板張りとし、ロープ固定に用いる D 環等を適切な箇所に設けること。

- (2) 上部中央左側に、梯子収納架台（引き出し構造）を設けること。

梯子収納架台は、3 連梯子及びカギ付 1 連梯子の 2 基を積載できるものとし、収納架台側面にとび口 2 本を取付けできる構造とすること。

- (3) 上部右側に、車両サイズに合わせアルミ縞板製のボックスを取付け、ボックス内部には、固定可動式の仕切り板を取付けること。

（詳細について、別途担当者と協議すること。）

- (4) ボディー後部に照明灯を設け、取付け位置下部にて入・切できるスイッチを設けること。

#### 5 その他

- (1) 各装備品及び取付け品等については、別表のとおりとする。

- (2) 上記(1)の各装備品等を積載した状態で、車両の許容荷重内にて車両新規登録を受けること。

また、各装備品等の積載場所は別途担当者と協議すること。

### 第 8 ホースカー

#### 1 ホースカー

ホースカーは、6 5 mm ホース 1 0 本程度が積載可能な 1 台を設置するものとする。

#### 2 ホースカー付属品

ホース運搬具に下記付属品を取付けること。

- (1) 二又分岐

- (2) 管そう 2 本、6 5 mm 雄雄・雌雌媒介 各 1 個

（付属品の詳細については、契約後別途担当と協議すること）

### 第 9 消防専用電話装置

無線機は別紙の仕様書とし、本仕様書と重複するものについて除くことができるが、当局担当者と協議すること。

### 第 1 0 塗装及び記入文字

## 1 塗装

- (1) 車両は充分錆を落したうえ、プライマー、パテ、サフェーサにより下地処理を行い充分乾燥させた後、環境に考慮した揮発性有機溶剤及び鉛成分を含まない赤色ハイソリッドウレタン塗装により塗装を行うこと。
- (2) アルミ縞板使用部は、無塗装とすること。
- (3) 車体下回りは黒色塗装とし、ボックス内はシルバーメタリックとすること。
- (4) 艀装に使用されるコーキング材及びシーリング材は原則ボディー及びアルミ縞板と同色とし、完成後同所が目立たない処理をすること。
- (5) ボックス等の扉、シャッター及びフロントグリル等キャブ前面はボディーと同色とすること。

## 2 記入文字

- (1) キャビン屋根中央に上空から確認できるようバランスよく丸ゴシック体の白文字で対空表示を記入すること。
- (2) キャビンドア左右に「埼玉西部消防局」と丸ゴシック体の白文字で左から右に読めるように記入すること。
- (3) 左右の前部ドア下部に丸ゴシック体の白文字にて整理番号を記入すること。
- (4) 後部左右ドアの下部には当局指定のシンボルマークを取付けること。
- (5) 車体両側面シャッター中央部に当局デザイン白で、上段に「SAITAMA SEIBU」下段に「FIRE BUREAU」と2段表示で体裁よく記入すること。
- (6) 車体後部面シャッター中央部に白文字で「埼玉西部消防局」と記入すること。
- (7) 記入文字の記入方法、寸法及び位置等の詳細は、別途担当者と協議すること。

### 第11 その他

本仕様書に記載されている仕様及び部品等で指定以外のものを使用する場合は、「同等品確認申請書」を公告に記載された期限までに提出し、発注者の承認を得ることとする。

### 第12 特記事項

本契約に関する支払い方法は、一括払いとする。